

## 犬も歩けば

—新版いろはがるた—

- |     |                      |     |
|-----|----------------------|-----|
| (い) | 異国の資源にあまえて失敗         | 謙 介 |
| (ろ) | ロッカーに赤ちゃん押しこむ百円いれて   | 雅 子 |
| (は) | 「はい、勉強、終えたら塾よ」の生活リズム | 哲 也 |
| (お) | 鬼よりこわい、教育ママ          | 作 太 |
| (ち) | ちょっとだけよとたれ流し         | 一 夫 |
| (け) | 消しゴムでは消えない物価高        | 真 理 |
| (む) | むち入れて、ラストスパート、ハイセイコー | 健 久 |
| (こ) | 子を育てた親の最後は養老院        | 真 彦 |
| (れ) | 歴史に残る石油危機            | なおみ |

現代版いろはがるた『犬も歩けば』という文集が出た。東京都杉並区立高井戸中学の2年生は、国語で学んだ「祖先の心——生活の笑いと知恵」をさらに深く理解しようと、自分たちで、いろはがるたを作った。

作品の内容は、生徒たちが、学校教育、公害問題、社会問題、政治等に強い関心を持っていることを示している。

## 福祉工場

朝、寮や家から彼等は工場に通う。東京都飾葛福祉工場。それぞれがさまざまな障害を克服しつゝ得た自分達の職場だ。しかしその道のりは誰れにとっても自分との果てしない闘いの道であった。多発性リューマチスで15年寝たきりの生活から6回の手術を受け歩けるようになった栗野さん。

“医者は8分が努力だといった。手術して立てるようになった。自分でとにかく歩きたい自分で仕事をして生活できたらと思った。自分自身が強くならなきゃだめだ。私は努力につきると思う”

交通事故に会い一時は社会復帰もあきらめた田中さん。

“一生仕事もできない社会復帰もできない体と知った時真暗やみで自殺しようと思つた。二度と働けないと思っていたんで働くということがこれ程とうといとは思わなかった”

福祉工場丸山社長は

“障害者が保護されなければならないというイメージが強すぎる。それは逆の差別だ。4億をかけて東京都がつくったけれど生産高ではもう4億を超している。一般雇用から切りすてられているこのような弱い人達でも方法をこうすれば立派に経済活動がやってくれる。これからはより重度の人達がどう働けるかを考えていかねばならない。ほんとは、こういう工場がない方がいいんだが……”

この工場に来る前は塗装関係の仕事をしていた染谷さん。そこでは給料も安く風当たりも強かった

“一番苦かったのは差別待遇だった”

仕事が終わる今日は給料日。自分達の手で身体で働いた代償は、決して高いものではないが彼等の顔はほころぶ。働く意志がありながら労働の場から切りすてられている障害者の数は計り知れない。夜勤の彼は、プラスチック成型の機械に我手で向かう。早く修理もできる一人前になりたいという彼。これからはより重度の障害者の雇用も考えていきたいという福祉工場。

ともにその明日はきびしい。